

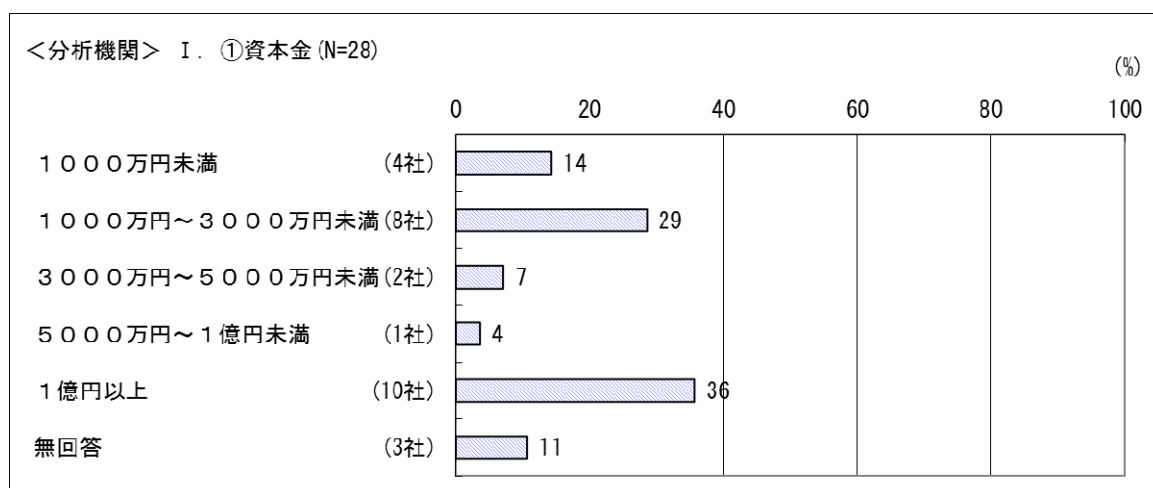
## 第 4 章 分析機関

## 1. 調査期間と回収状況

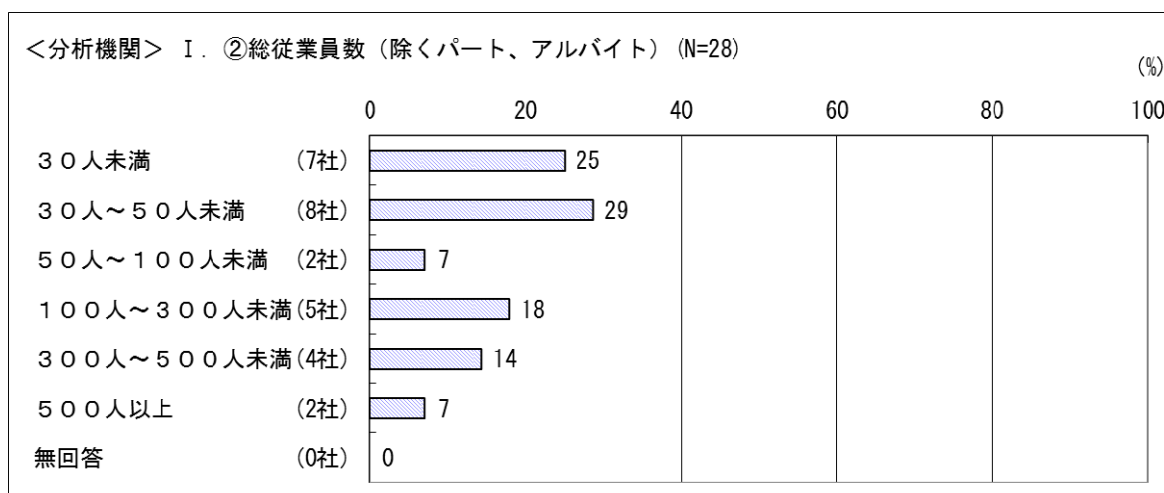
- (1) 調査期間：2010年11月～12月
- (2) 調査方法：郵送によるアンケート票記入
- (3) 対象企業：インターネット検索により無作為抽出した国内の食品分析機関（計84社）
- (4) 回収率：有効回答企業28社（有効回収率33%）

## 2. 回答企業の属性

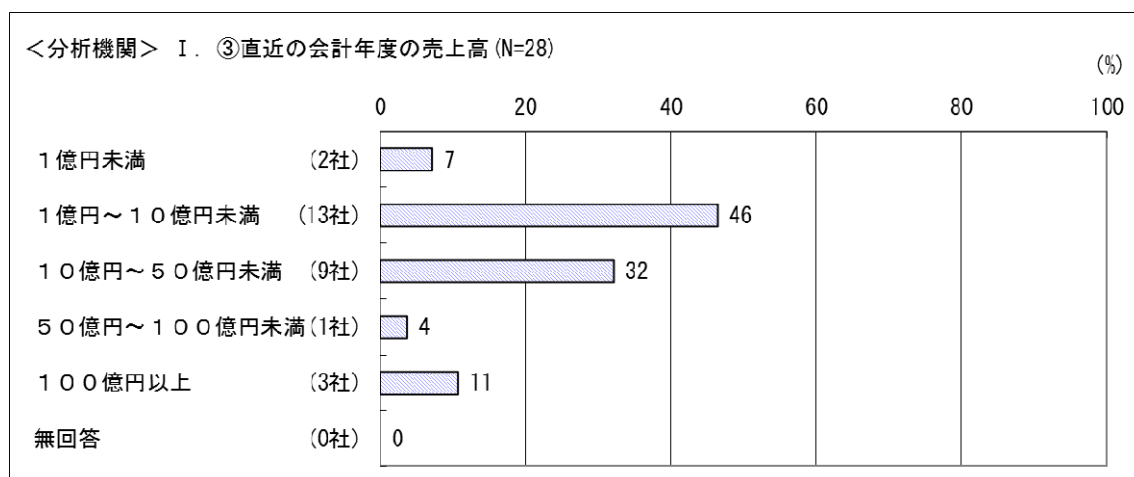
### ① 資本金規模別構成比



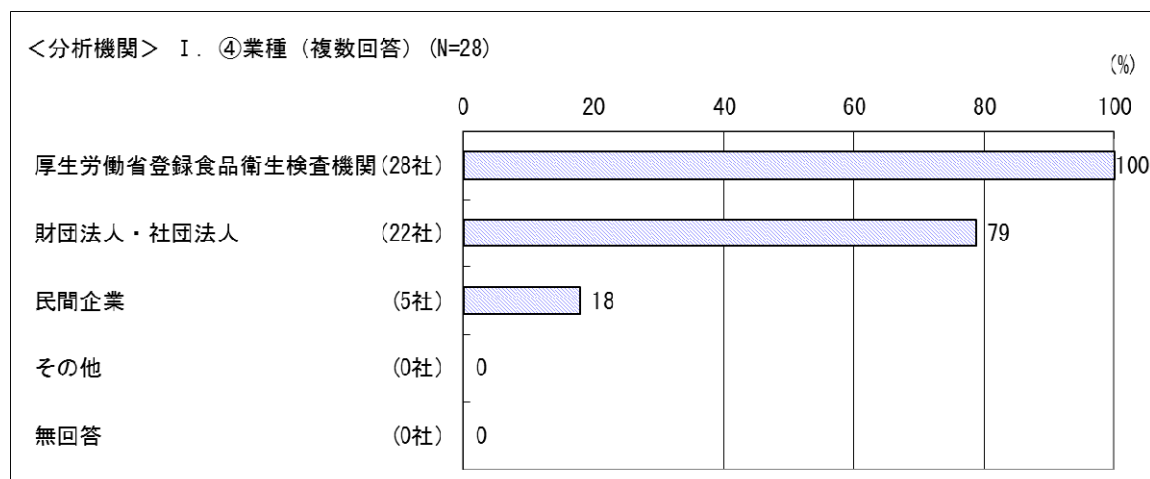
### ② 従業員規模別構成比



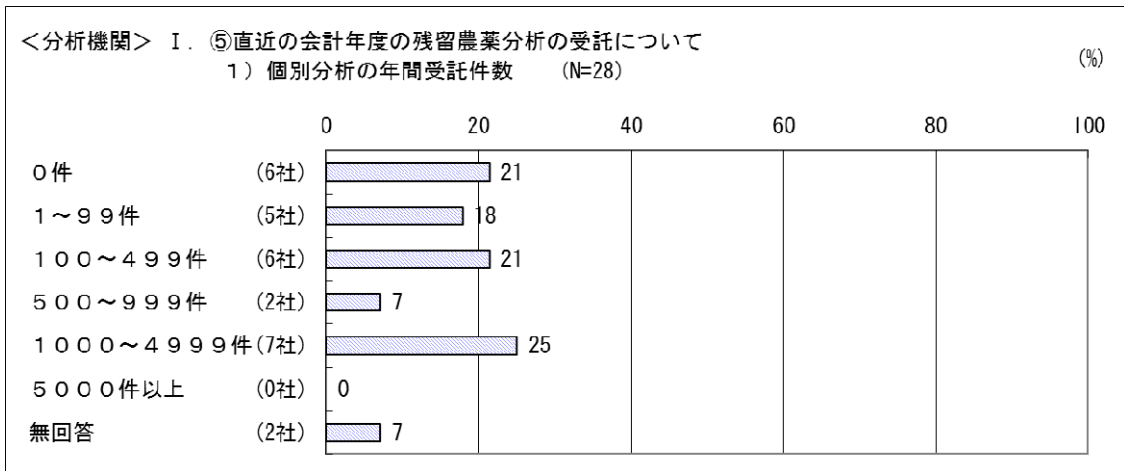
③ 売上規模別構成比



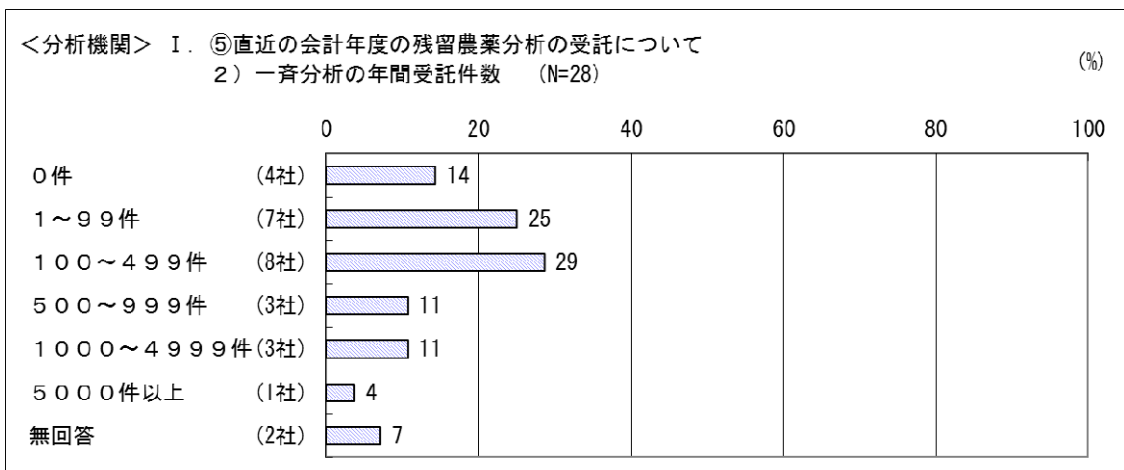
④ 業種 (複数選択可)



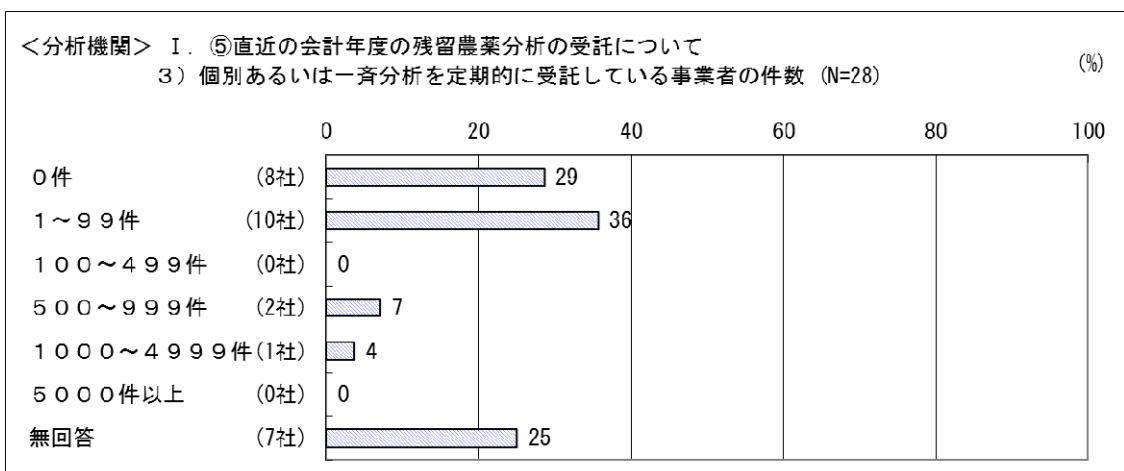
⑤ 直近会計年度の残留農薬分析の受託



(平均 1029 件 : 0 件および無回答を除く)

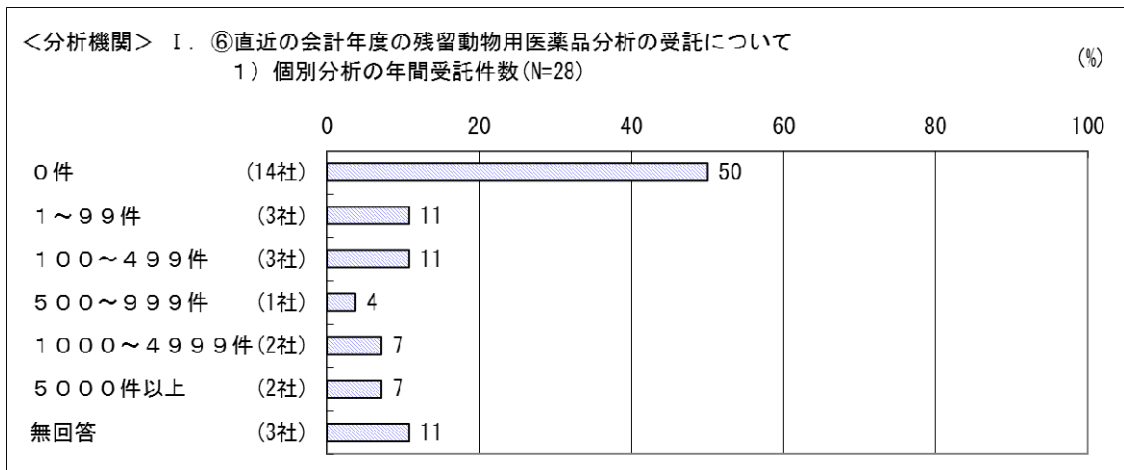


(平均 869 件 : 0 件および無回答を除く)

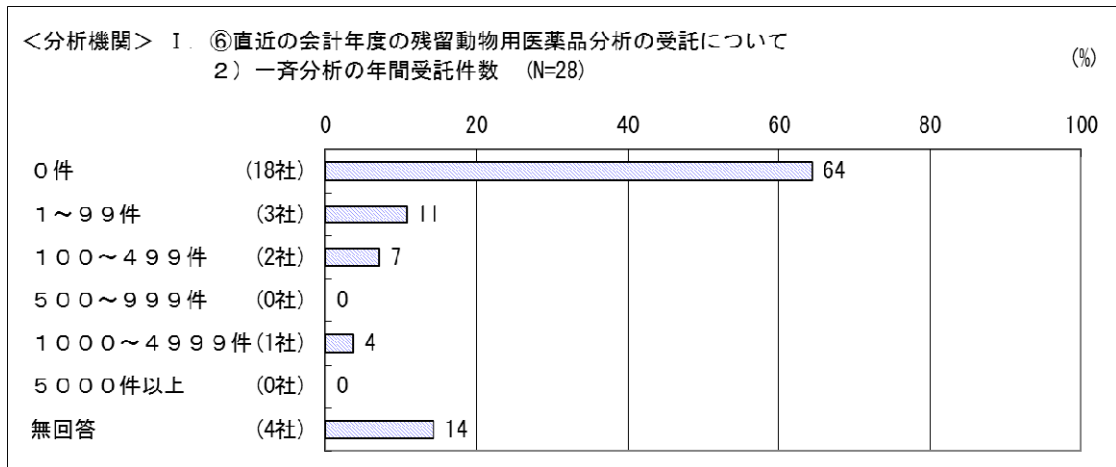


(平均 281 件 : 0 件および無回答を除く)

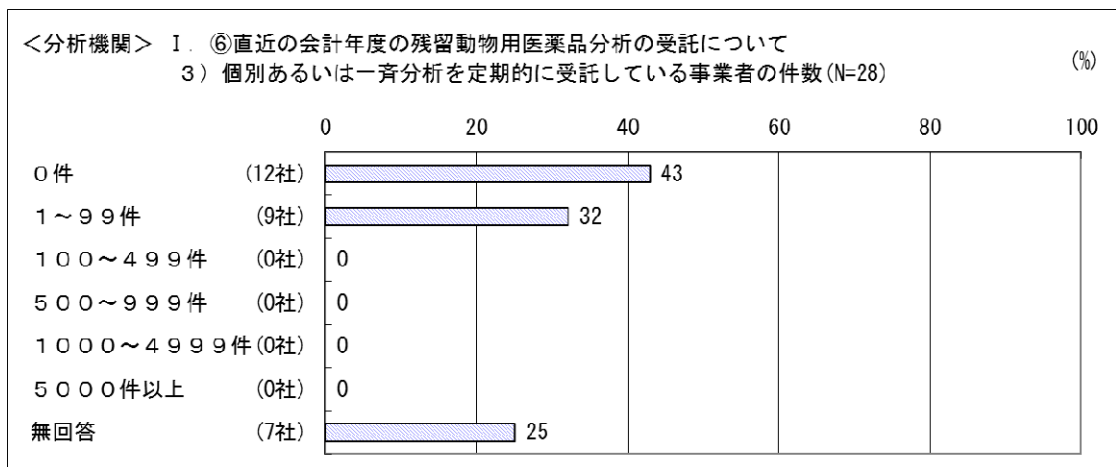
⑥ 直近会計年度の残留動物用医薬品分析の受託



(平均 4329 件 : 0 件および無回答を除く)



(平均 315 件 : 0 件および無回答を除く)



(平均 18 件 : 0 件および無回答を除く)

## II. ポジティブリスト制度施行後の貴機関の取り組み

### 1. 検査項目について

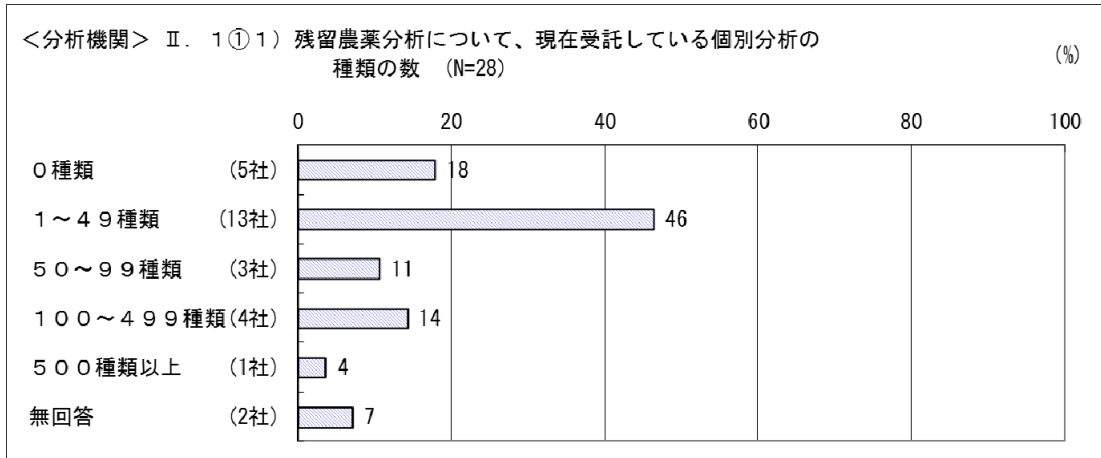
#### ① 残留農薬分析についてお尋ねします。

- 1) 現在受託している個別分析は何種類ですか。→ ( ) 種類
- 2) 個別分析の種類はポジティブリスト制度実施前に比べてどのくらい増加しましたか。  
→約 ( ) %増加した
- 3) 国内で市販品として購入できない検査試薬（標準品）はどのようにして入手していますか。（複数回答可）
  - A. 公的機関から頒布を受けている
  - B. 製造会社から頒布を受けている、または購入している
  - C. 海外から輸入している
  - D. 専門業者に特注（合成を依頼するなど）している
  - E. 市販品のみ使用している
  - F. その他 ( )

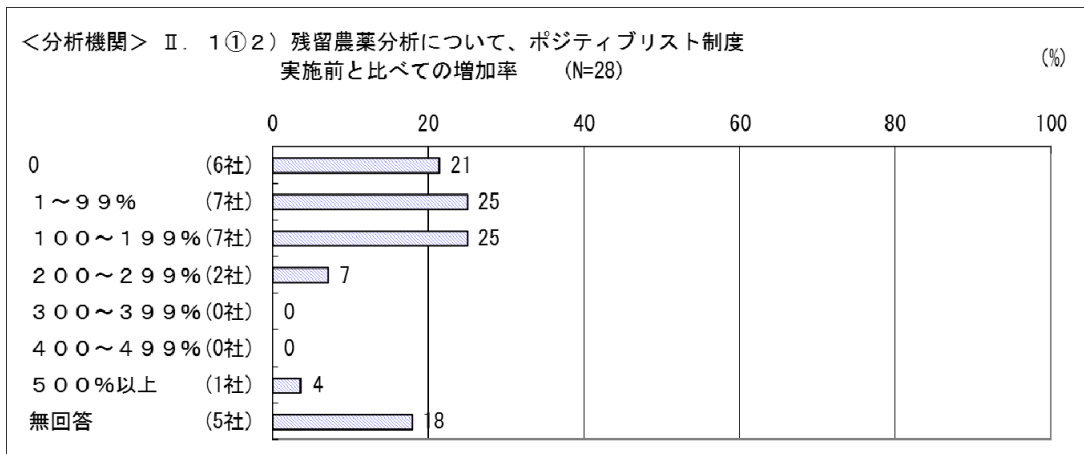
#### ② 残留動物用医薬品分析についてお尋ねします。

- 1) 現在受託している個別分析は何種類ですか。→ ( ) 種類
- 2) ポジティブリスト制度実施前に比べてどのくらい増加しましたか。→約 ( ) %
- 3) 国内で市販品として購入できない検査試薬（標準品）はどのようにして入手していますか。（複数回答可）
  - A. 公的機関から頒布を受けている
  - B. 製造会社から頒布を受けている、または購入している
  - C. 海外から輸入している
  - D. 専門業者に特注（合成を依頼するなど）している
  - E. 市販品のみ使用している
  - F. その他\* ( )

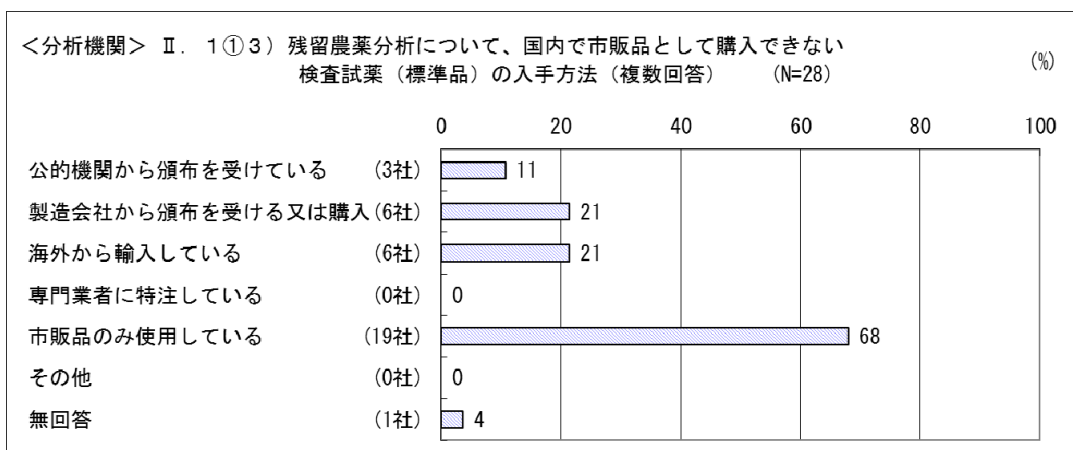
\*「その他（自由回答）」については、寄せられた意見を当センターで整理、取りまとめた上で、適宜掲載することとした。（以下、同様）



(平均 121 種類 : 0 件および無回答を除く)



(平均 96% : 1) で 0 種類および 2) で無回答を除く)



(再掲載)

## II. ポジティブリスト制度施行後の貴機関の取り組み

### 1. 検査項目について

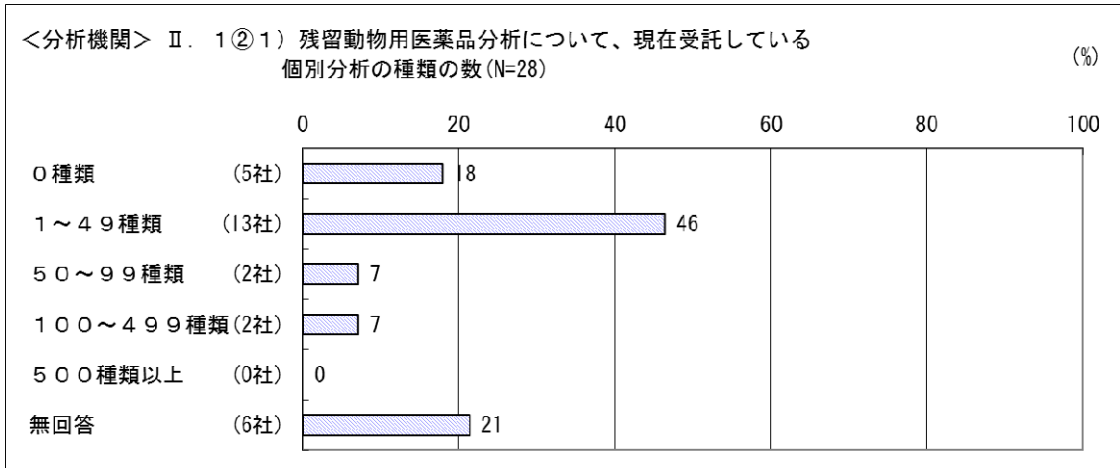
① 残留農薬分析についてお尋ねします。

- 1) 現在受託している個別分析は何種類ですか。→ ( ) 種類
- 2) 個別分析の種類はポジティブリスト制度実施前に比べてどのくらい増加しましたか。  
→約 ( ) %増加した
- 3) 国内で市販品として購入できない検査試薬(標準品)はどのようにして入手していますか。(複数回答可)
  - A. 公的機関から頒布を受けている
  - B. 製造会社から頒布を受けている、または購入している
  - C. 海外から輸入している
  - D. 専門業者に特注(合成を依頼するなど)している
  - E. 市販品のみ使用している
  - F. その他 ( )

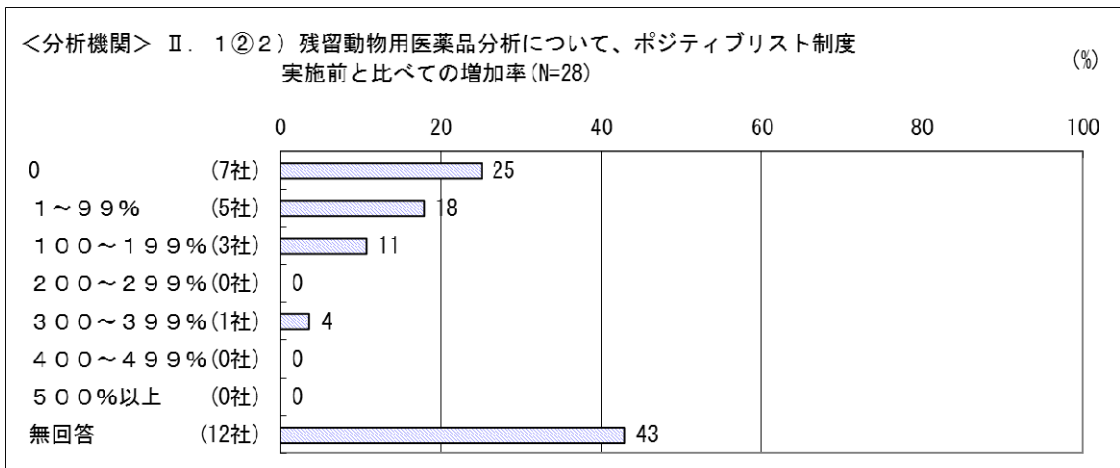
② 残留動物用医薬品分析についてお尋ねします。

- 1) 現在受託している個別分析は何種類ですか。→ ( ) 種類
- 2) ポジティブリスト制度実施前に比べてどのくらい増加しましたか。→約 ( ) %
- 3) 国内で市販品として購入できない検査試薬(標準品)はどのようにして入手していますか。(複数回答可)
  - A. 公的機関から頒布を受けている
  - B. 製造会社から頒布を受けている、または購入している
  - C. 海外から輸入している
  - D. 専門業者に特注(合成を依頼するなど)している
  - E. 市販品のみ使用している
  - F. その他 ( )

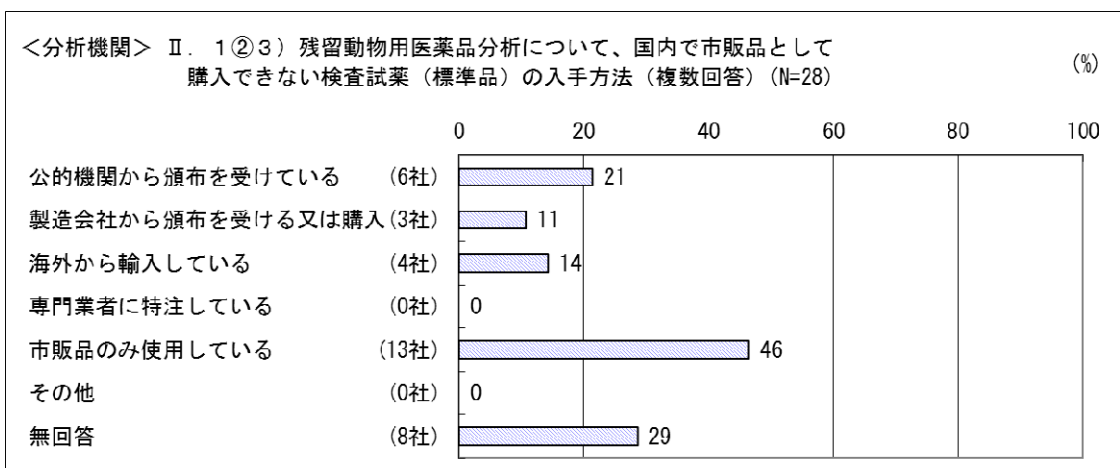




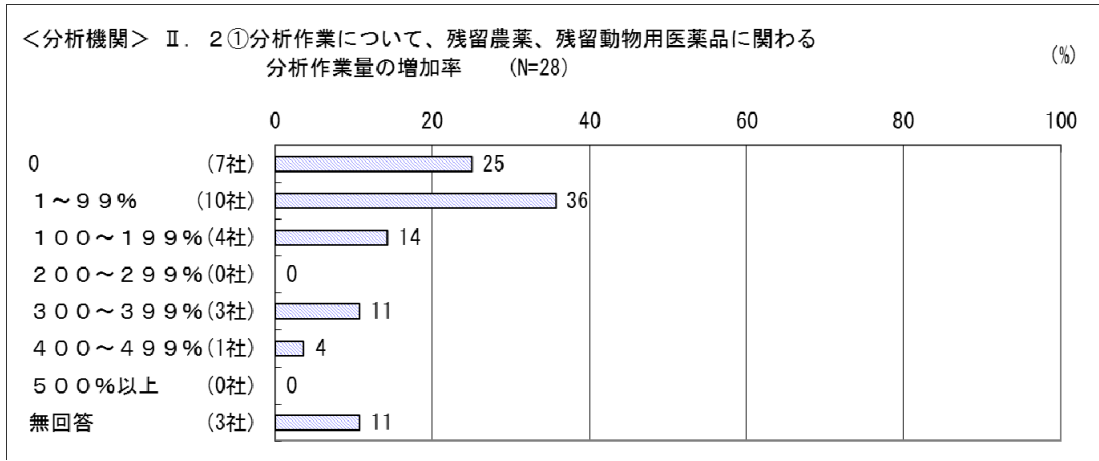
(平均 40 種類 : 0 件および無回答を除く)



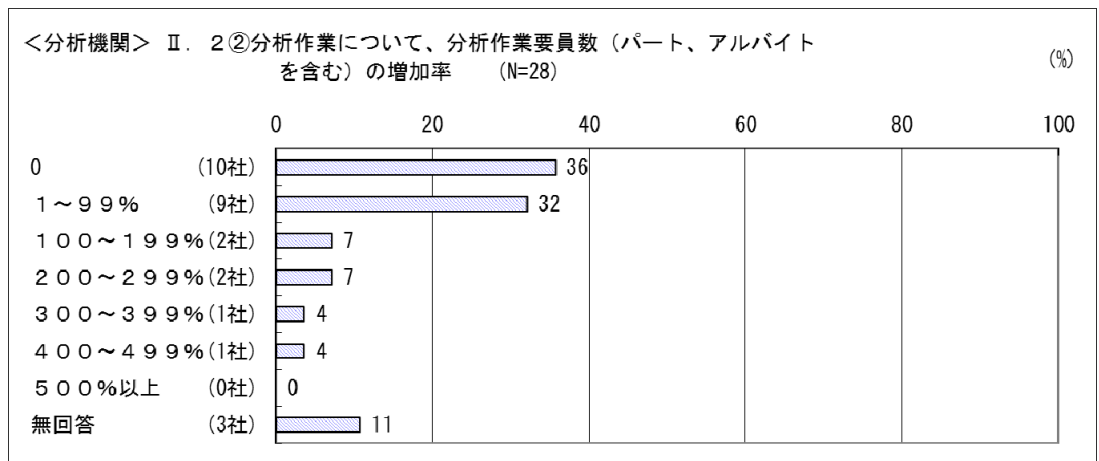
(平均 85% : 1) で 0 種類および 2) で無回答を除く)



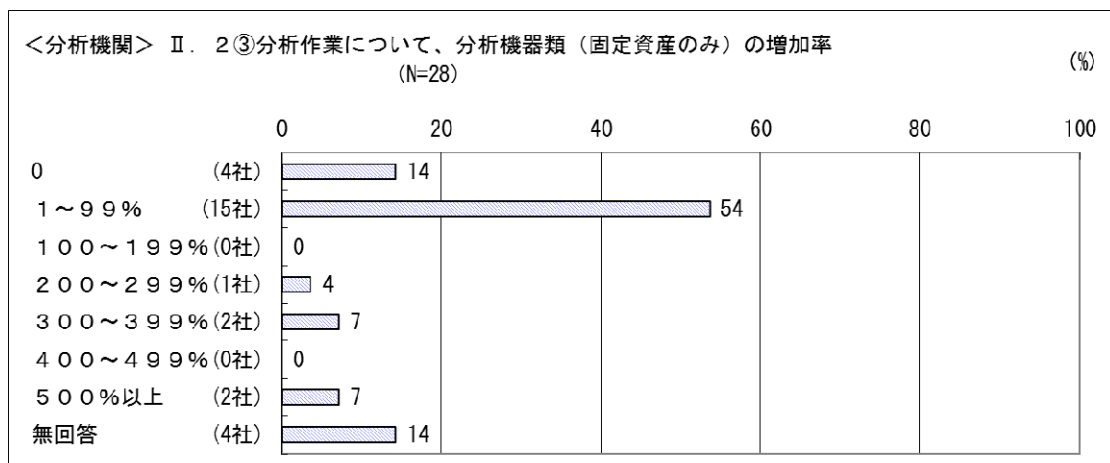




(平均 80% : 無回答を除く)

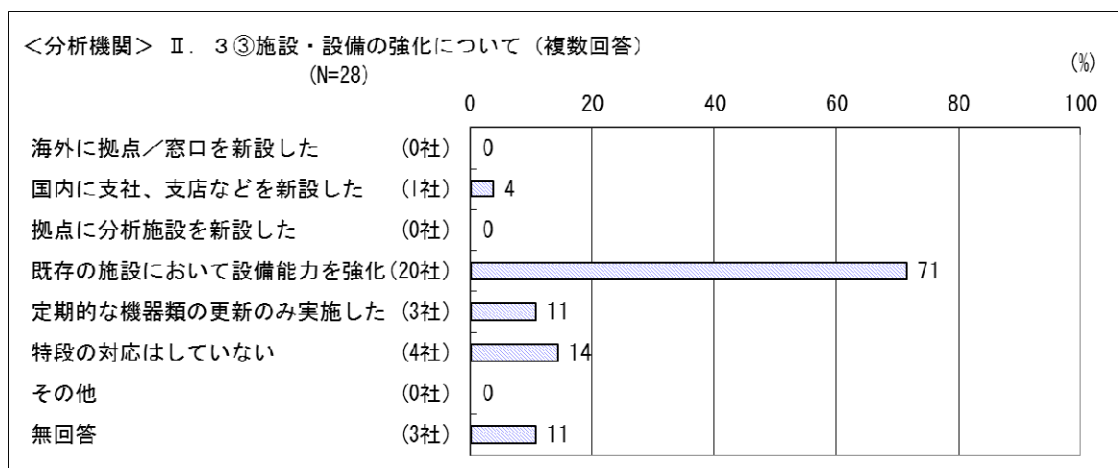
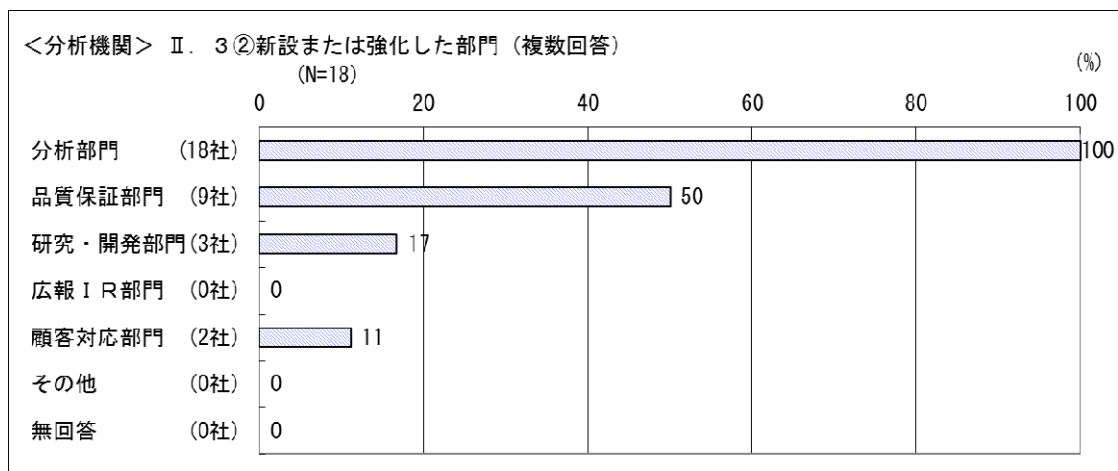
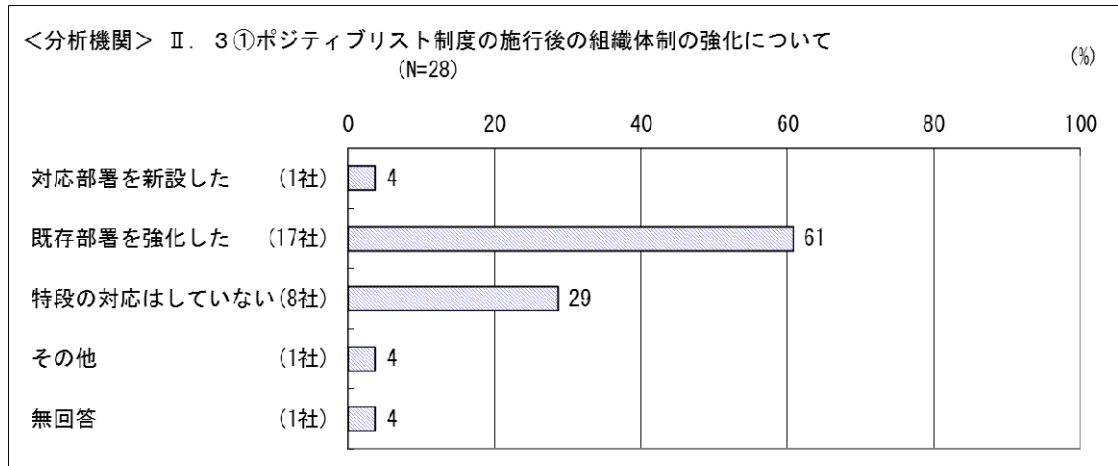


(平均 65% : 無回答を除く)

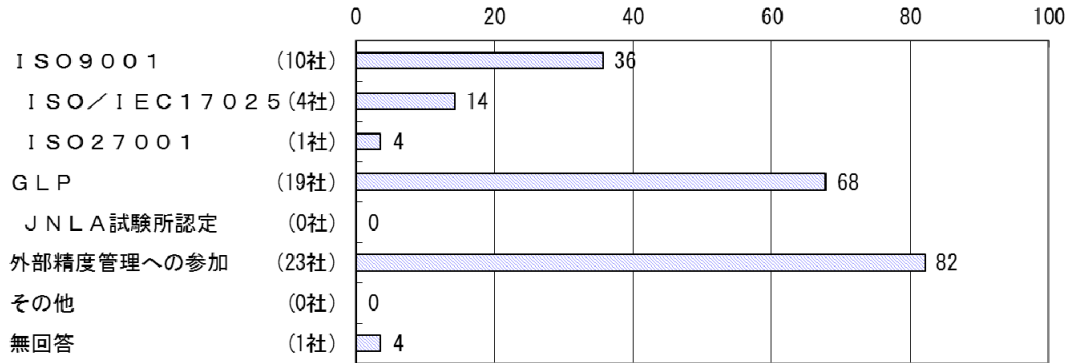


(平均 95 % : 無回答を除く)

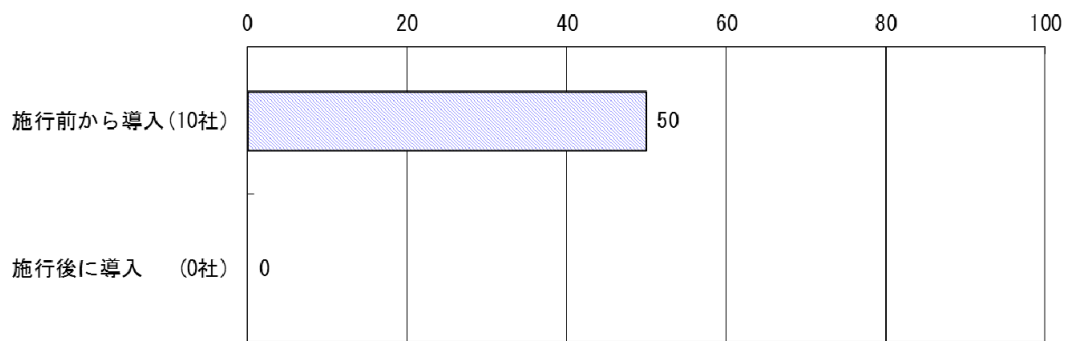




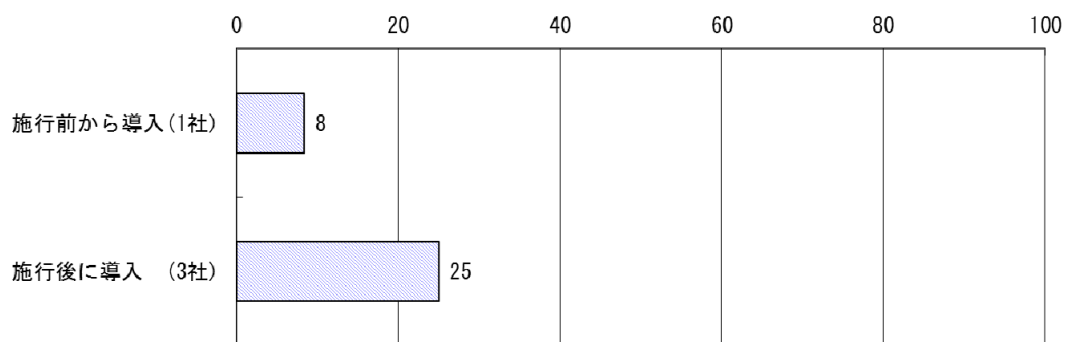
<分析機関> Ⅱ. 3④品質管理システムの導入状況（複数回答）  
 (N=28) (%)



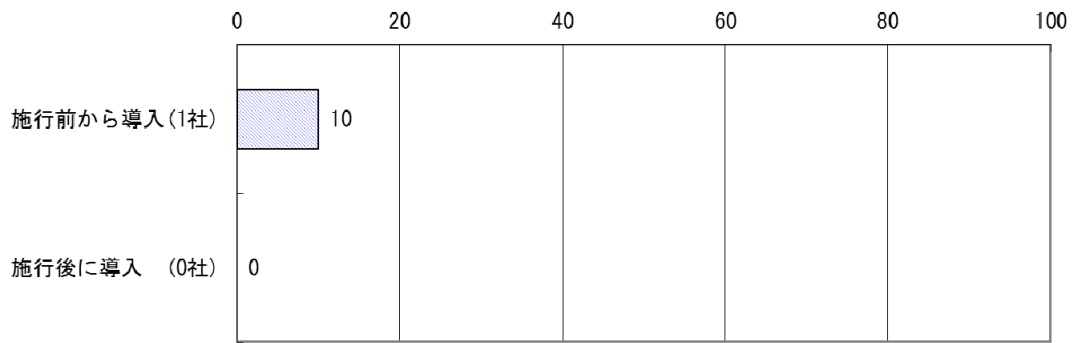
<分析機関> Ⅱ. 3④品質管理システムの導入状況（複数回答）  
 (A. ISO 9001) (N=20) (%)



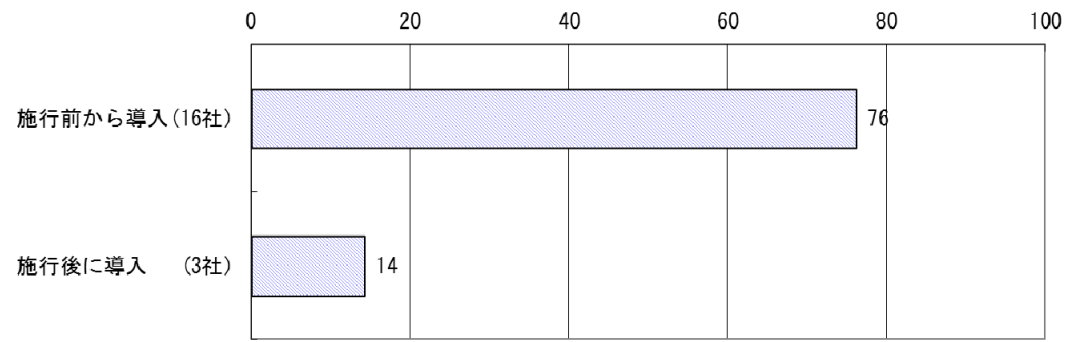
<分析機関> Ⅱ. 3④品質管理システムの導入状況（複数回答）  
 (B. ISO/IEC 17025) (N=12) (%)



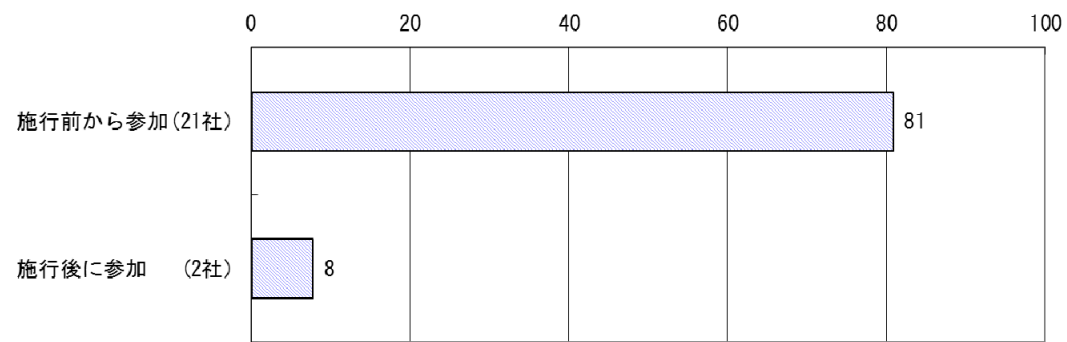
<分析機関> Ⅱ. 3④品質管理システムの導入状況（複数回答）  
 (C. ISO27001) (N=10) (%)



<分析機関> Ⅱ. 3④品質管理システムの導入状況（複数回答）  
 (D. GLP) (N=21) (%)



<分析機関> Ⅱ. 3④品質管理システムの導入状況（複数回答）  
 (F. 外部精度管理への参加) (N=26) (%)

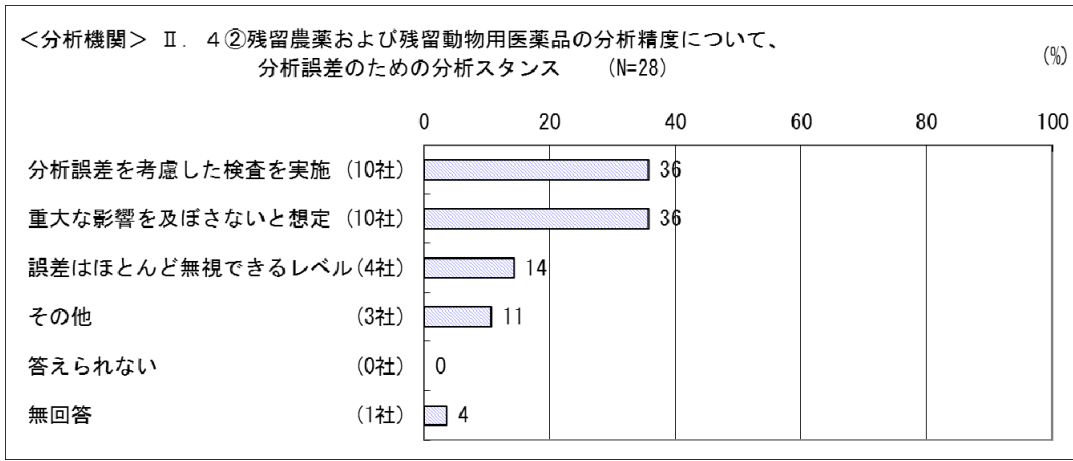
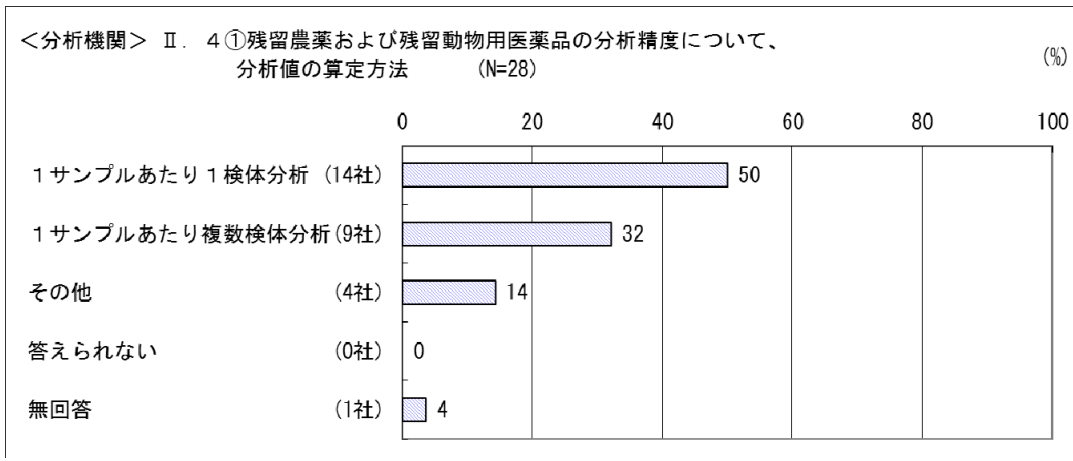


4. 残留農薬および残留動物用医薬品の分析精度について

残留農薬および残留動物用医薬品における分析の精度についてお尋ねします。

- ① 貴機関では分析値をどのようにして算定していますか。
- A. 1 サンプルあたり 1 検体分析して出た値を分析値としている
  - B. 1 サンプルあたり複数検体分析して出た値を平均する等の処理をして分析値としている
  - C. その他 ( )
  - D. 答えられない
- ② 一律基準である 0.01ppm のような低濃度の領域では、一般に調製誤差、測定誤差などからある程度の分析誤差が生じるとされています。これについて、貴機関では基本的にはどのようなスタンスで分析を実施されていますか。
- A. 分析誤差を考慮した検査を実施している
  - B. 分析誤差はあるが、検査には重大な影響を及ぼさないと想定して検査を実施している
  - C. 分析誤差はほとんど無視できるレベルであり、特に検査に際して考慮していない
  - D. その他 ( )
  - E. 答えられない
- ③ ②で A または B と答えられた方：どのような検査を実施しているか、差し支えない範囲でお知らせください。
- ( )
- ④ 一律基準の農薬について、0.01ppm を僅かに超える分析値が出た場合にはどのように結果を報告していますか。
- A. 再分析は行わず、得られた分析結果を報告している
  - B. 再分析は行わず、個々の分析データを含めて総ての分析結果を報告している
  - C. 同じサンプルを再分析して得られたデータをあわせて判断し、報告している
  - D. その他 ( )
  - E. 答えられない
- ⑤ 貴機関において、0.01ppm での分析誤差はどの程度と考えていますか。残留農薬の GC/MS (または GC/MS/MS) 分析を例に SD/平均値 (%) でお知らせください。
- A. ±5%以内
  - B. ±5~30%
  - C. ±30~60%
  - D. ±60%以上
  - E. 答えられない





③分析誤差への対応について

- ・添加回収試験あるいはマトリクス検量線を日常的（サンプル毎も含む）に実施（6社）
- ・試行数を増やして判断（3社）
- ・試験法の妥当性をガイドラインに従って確認（3社）
- ・公定法の遵守（2社）

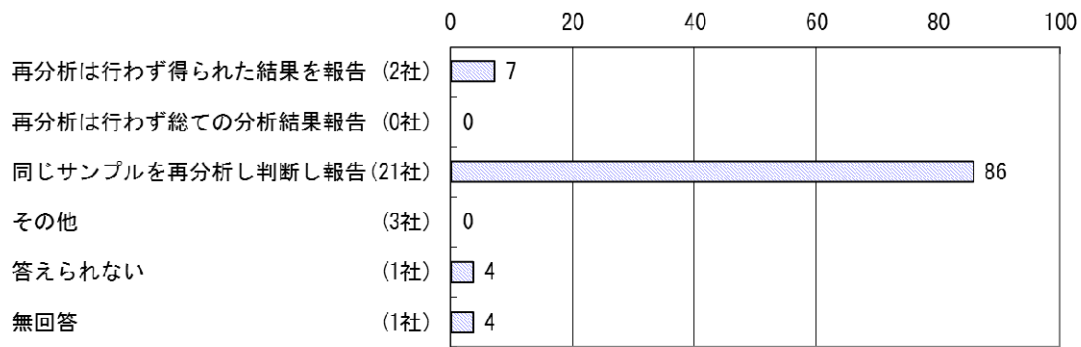
(再掲載)

4. 残留農薬および残留動物用医薬品の分析精度について

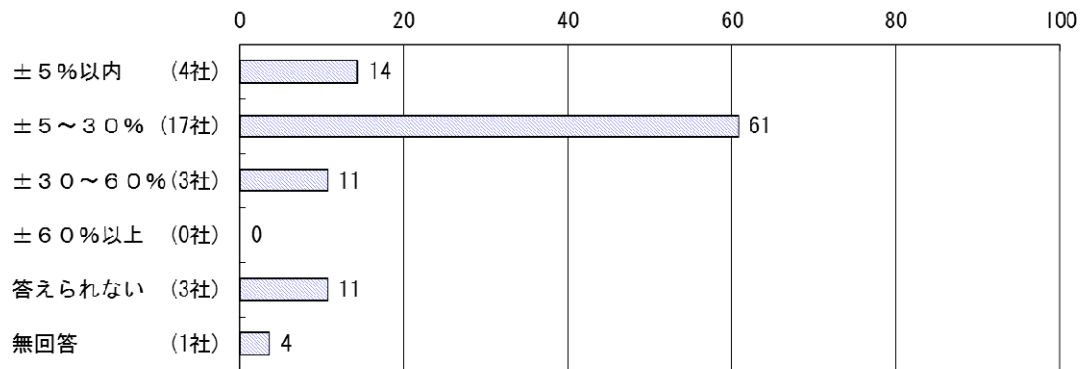
残留農薬および残留動物用医薬品における分析の精度についてお尋ねします。

- ① 貴機関では分析値をどのようにして算定していますか。
- A. 1 サンプルあたり 1 検体分析して出た値を分析値としている
  - B. 1 サンプルあたり複数検体分析して出た値を平均する等の処理をして分析値としている
  - C. その他 ( )
  - D. 答えられない
- ② 一律基準である 0.01ppm のような低濃度の領域では、一般に調製誤差、測定誤差などからある程度の分析誤差が生じるとされています。これについて、貴機関では基本的にはどのようなスタンスで分析を実施されていますか。
- A. 分析誤差を考慮した検査を実施している
  - B. 分析誤差はあるが、検査には重大な影響を及ぼさないと想定して検査を実施している
  - C. 分析誤差はほとんど無視できるレベルであり、特に検査に際して考慮していない
  - D. その他 ( )
  - E. 答えられない
- ③ ②で A または B と答えられた方：どのような検査を実施しているか、差し支えない範囲でお知らせください。
- ( )
- ④ 一律基準の農薬について、0.01ppm を僅かに超える分析値が出た場合にはどのように結果を報告していますか。
- A. 再分析は行わず、得られた分析結果を報告している
  - B. 再分析は行わず、個々の分析データを含めて総ての分析結果を報告している
  - C. 同じサンプルを再分析して得られたデータをあわせて判断し、報告している
  - D. その他 ( )
  - E. 答えられない
- ⑤ 貴機関において、0.01ppm での分析誤差はどの程度と考えていますか。残留農薬の GC/MS (または GC/MS/MS) 分析を例に SD/平均値 (%) でお知らせください。
- A. ±5%以内
  - B. ±5~30%
  - C. ±30~60%
  - D. ±60%以上
  - E. 答えられない

<分析機関> Ⅱ. 4④一律基準の農薬について、0.01ppmを僅かに超える分析値が出た場合の結果報告 (N=28) (%)



<分析機関> Ⅱ. 4⑤0.01ppmでの分析誤差の程度 (N=28) (%)



(付録) 自由意見欄取りまとめ

アンケート最終ページに寄せられた「自由意見」を整理し、取りまとめた上で掲載した。

1. 分析方法に関する意見

意見	業種	企業規模
全ての試験項目について確認試験の方法を定めて欲しい。 一斉分析法は検査項目が多いため、スクリーニング試験において検出された場合のみ本試験を行うこととして欲しい。	分析機関	株式会社

2. その他の意見

残留農薬検査での一斉分析で、多項目（数百項目）を短い日数で安価な金額で行っている検査機関があるが、検査精度からの面を考慮すると非常に疑問を感じている。特に加工品対象の検査は、原料等の生鮮と異なり、検査作業で手間がかかる事が、一般的に考えられるがすべてが短時間で処理され結果を出しているようである。また、検出限界値も高くして顧客に説明もなく、問題なしと言った検査結果を出しているとも聞きます。検疫検査のように精度管理が求められるように業界全体で考えていかなければならないと考えます。国内の検査に対する規制が甘く検査技術が整っていない検査機関が、安価にむやみに検査受託している風潮にあります。食の安全と安心が担保されていない状況にあると思われまます。検査依頼者も検査に関するコストをいかに抑えて業績をのばすか？きびしい選択に迫られている状況である事も理解できますが、検査機関としての企業倫理も必要と考えます。	分析機関	財団法人
ポジティブリスト導入により、一斉分析が主になった。さらに、インターネット等により検査料金の大幅な値下げにより、採算が取れない（精度に対して）状況となった。そのため、一斉分析には力を入れていない。又、個別分析の依頼も著しく減少している。	分析機関	一般財団法人